

項目	内容
名称	ガルシニア・カンボジア、インディアンデイト、ゴラカ [英]Garcinia、Gambooge、Brindal Berry、Malabar Tamarind [学名]Garcinia cambogia
概要	ガルシニア・カンボジアは、インドや東南アジアに生育するフトモモ科の常緑樹。果実や果皮が香辛料や調味料として使用される。インディアンデイト、ゴラカ、タマリンドなどと呼ばれることがあるが、別項のタマリンドとは別種である。
法規・制度	<b>■食薬区分</b> ・果実、果皮、茎、種子、根、葉、花：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質(原材料)」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	
分析法	・果実中のヒドロキシクエン酸などをUV検出器付(210 nm) HPLC ( <a href="#">PMID:11929682</a> )、またはPCI/GC/MSにより分析した報告がある ( <a href="#">PMID:11319829</a> )。 ・皮から抽出した(2S,3S)-ヒドロキシクエン酸および(2S,3R)-ヒドロキシクエン酸をNMRにより分析した報告がある ( <a href="#">PMID:16116285</a> )。

有効性	
循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	<p><b>&lt;減量&gt;</b></p> <p><b>メタ分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年5月までを対象に4つのデータベースで検索できた介入研究5報 (検索条件：年齢≥18歳、BMI≥25) について検討したメタ分析において、ガルシニア・カンボジアの摂取は、体重 (5報) との関連は認められなかった (<a href="#">PMID:31793087</a>)。</li> </ul> <p><b>RCT：国内</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肥満の成人40名 (試験群20名、平均37.1±2.8歳、日本) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ガルシニア・カンボジア果皮熱水抽出物 555.6 mg (ヒドロキシクエン酸333.3 mg含有) ×3回/日を8週間摂取させたところ、内臓脂肪面積、皮下脂肪面積、内臓脂肪/皮下脂肪面積比に影響は認められなかった (2002162119)。</li> </ul> <p><b>RCT：海外</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過体重の成人135名 (試験群66名、平均38.6±7.7歳、アメリカ) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ガルシニア・カンボジア抽出物 (50%ヒドロキシクエン酸含有) 1,000 mg×3回/日、12週間摂取させたところ、体重、体脂肪率に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:9820262</a>)。</li> <li>・過体重の成人86名 (韓国) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ダイズ葉抽出物 (28名、平均34.96±2.42歳) またはガルシニア・カンボジア抽出物 (29名、平均34.07±2.30歳) を2 g/日、10週間摂取させたところ、いずれも体重に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:21936892</a>)。</li> <li>・肥満の女性43名 (25~60歳、試験群30名、ブラジル) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、食事制限とともにガルシニア・カンボジア抽出物 (50%ヒドロキシクエン酸含有) 800 mg×3回/日を60日間摂取させたところ、血中脂質 (TG) の低下が認められた。一方、その他の血中脂質 (TC、HDL-C、LDL-C)、レプチン、インスリン、体組成 (BMI、除脂肪量、体脂肪率、ウエストヒップ比)、代謝 (安静時エネルギー消費量、呼吸商) に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:24133059</a>)。</li> </ul>
その他	調べた文献の中に見当たらない。

ヒ  
ト  
で  
の  
評  
価

参考文献

- (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、一部改正について)  
[\(PMID:11929682\) J. Pharm. Biomed. Anal., 28: 379-384, 2002](#)  
[\(PMID:11319829\) Anal. Biochem., 292: 148-154, 2001](#)  
(2006071256) 臨床栄養. 2006;108(1):60-4.  
[\(PMID:11443511\) Int J Obes Relat Metab Disord. 2001 Jul;25\(7\):1087-94.](#)  
[\(PMID:9820262\) JAMA. 1998 Nov 11;280\(18\):1596-600](#)  
[\(PMID:17157086\) Dig Liver Dis. 2007 Oct;39\(10\):953-5.](#)  
[\(PMID:18729243\) Phytother Res. 2008 Sep;22\(9\):1135-40.](#)  
[\(PMID:19151465\) Indian Heart J. 2007 Nov-Dec;59\(6\):494-6.](#)  
[\(PMID:21936892\) Nutr J. 2011 Sep 21;10:94.](#)  
(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳  
(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS).  
[\(PMID:24133059\) Phytother Res. 2014 Jun;28\(6\):887-91.](#)  
[\(PMID:25475477\) Can J Cardiol. 2014 Dec;30\(12\):1732.e13-5.](#)  
[\(PMID:25811114\) J Clin Gastroenterol. 2015 May-Jun;49\(5\):449-50.](#)  
[\(PMID:26626648\) Ann Hepatol. 2015 Jan-2016 Feb;15\(1\):123-6.](#)  
[\(PMID:24699886\) J Med Toxicol. 2014 Dec;10\(4\):399-401.](#)  
[\(PMID:27486540\) Prim Care Companion CNS Disord. 2016 Apr 28;18\(2\).](#)  
[\(PMID:26979102\) Aust N Z J Psychiatry. 2016 Jul;50\(7\):700-1.](#)  
[\(PMID:28018115\) World J Gastroenterol. 2016 Dec 7;22\(45\):10071-10076.](#)  
[\(PMID:27630171\) Aust N Z J Psychiatry. 2017 Jun;51\(6\):641-642.](#)  
[\(PMID:28968624\) R I Med J \(2013\). 2017 Oct 2;100\(10\):48-50.](#)  
[\(PMID:31328067\) Cureus. 2019 May 16 11\(5\) e4676.](#)  
[\(PMID:31772720\) World J Hepatol. 2019 Nov 27 11\(11\)735-742.](#)  
[\(PMID: 28982303\) J Pharm Pract. 2019 Feb;32\(1\):99-102.](#)  
[\(PMID:16116285\) Biosci Biotechnol Biochem. 2005 Aug;69\(8\):1555-61.](#)  
(2002162119) J Oleo Sci. 2001;50(10):805-12.  
(101) 健康・機能性食品の基原植物事典 中央法規  
[\(PMID:31793087\) Phytother Res. 2020 Mar;34\(3\):526-545.](#)  
[\(PMID:30940594\) Food Chem Toxicol. 2019 Jun;128:61-67.](#)